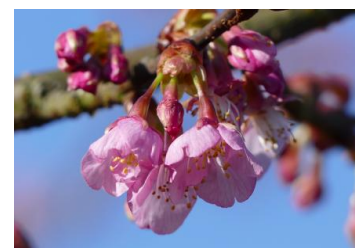


<雨水(うすい)>2月 24 節季の大寒から立春そして雨水、「春の気が始めて立ち、雪が雨に変わり、氷が解けて水になる」時候です。ところが少しづつ冬の気が去っていくのではなく異常な暖かさ(13~15日)から一転(16日)して雪が降りました。翌日まで残るほどのものではなかったのですが富士の冠雪は例年の姿に戻りました。そのあと気温があまり上がらないまま霜が降り霜柱の立つ日もありました。 <↑マガモと雪、霜化粧?→>



それでも昨年より2週間ほど早く”カワヅザクラ” “や”カンヒザクラ”が咲き出しました。ところでカンヒザクラの花は花弁があまり開かずみんな下を向いています。その子のカワヅザクラの花も下向き加減のように思えます。異母兄弟の”カンザクラ”はまだ咲き出しません。春の足音のとらえ方が違うようですね。“フキノトウ”の緑は例年通りいつもの場所で鮮やかです。「ここにふきのとうそこにふきのとう(山頭火)」、摘んで食し



<カワヅザクラ>



<カンヒザクラ>



<フキノトウ>

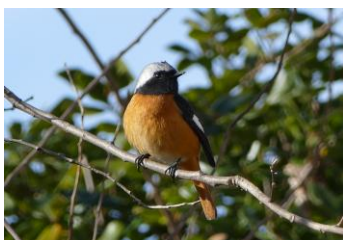
かです。「ここにふきのとうそこにふきのとう(山頭火)」、摘んで食し

たくなります。もう1句「荅(つぼみ)とはなれもしらずよ露のたう(蕪村)」。

<じっくりと>野辺や道端にはオオイヌノフグリやホトケノザ、そして建物の脇には先のカワヅザクラやカンヒザクラが目を惹きます。一方、この時期に雑木林で鮮やかな色をしたものは“アオキ”の赤い実(右写真)くらいでしょうか。アオキは今年の春に花を咲かせてからじっくりと時間をかけて緑の実を膨らませ、ようやく赤く色づいてきました。実の付き具合を見るとやはり豊作の年(昨年)のようですね。ところでアオキは日本原産とのこと。



<夢中>黒いネクタイ姿の“シジュウカラ”(右写真)は樹上で忙(せわ)しなく動き回っていることが多いのですが何羽も地面に降り夢中になって餌を啄んでいます。餌は草の間にいる虫とか草の種でしょうか。もっとよく地面で見かけるのが“ジョウビタキ”(左写真)です。ハクセキレイほどではありませんが、人が近づいてもわりに平気なようです。写真は地面から飛び立ちコブシの枝に移ったところ



です。枝に付いたコブシの蕾はまだ堅そうです。

(文と写真：松本正勝)